

4 広域圏の転入・転出の状況

転入超過率は仙台都市圏が最も高く、転出超過率は気仙沼・本吉広域圏が最も高い

転入者数を広域圏別にみると、仙台都市圏への転入者数が20万7646人と最も多く、次いで石巻広域圏（1万8001人）、大崎広域圏（1万7626人）などとなっている。また、平成22年と比べ転入者数が最も増加しているのは仙台都市圏で、6272人の増加となっており、増加率でみると登米広域圏が62.8%と最も高くなっている。

一方、転出者数についても仙台都市圏からの転出者数が17万280人と最も多く、次いで石巻広域圏（2万5935人）、仙南広域圏（1万6558人）などとなっている。また、平成22年と比べ転出者数が増加しているのは、石巻広域圏及び気仙沼・本吉広域圏のみで、増加数は石巻広域圏で7927人、気仙沼・本吉広域圏で4209人の増加となっており、増加率でみると、石巻広域圏で44.0%、気仙沼・本吉広域圏で66.9%となっている。

転入・転出超過率をみると、転入超過率は仙台都市圏が2.7%と最も高く、次いで大崎広域圏及び登米広域圏がそれぞれ0.7%となっている。転出超過率は、気仙沼・本吉広域圏が8.1%と最も高く、次いで石巻広域圏（4.2%）、栗原広域圏（1.4%）となっている。また、転入・転出超過率を平成22年と比べると、登米広域圏、大崎広域圏及び仙南広域圏は転出超過から転入超過に転じ、仙台都市圏では転入超過率が拡大している。また、栗原広域圏では転出超過率が縮小している一方、気仙沼・本吉広域圏及び石巻広域圏で転出超過率が拡大している。

（図14，表14）

図14 転入・転出超過率—広域圏（平成22年，27年）

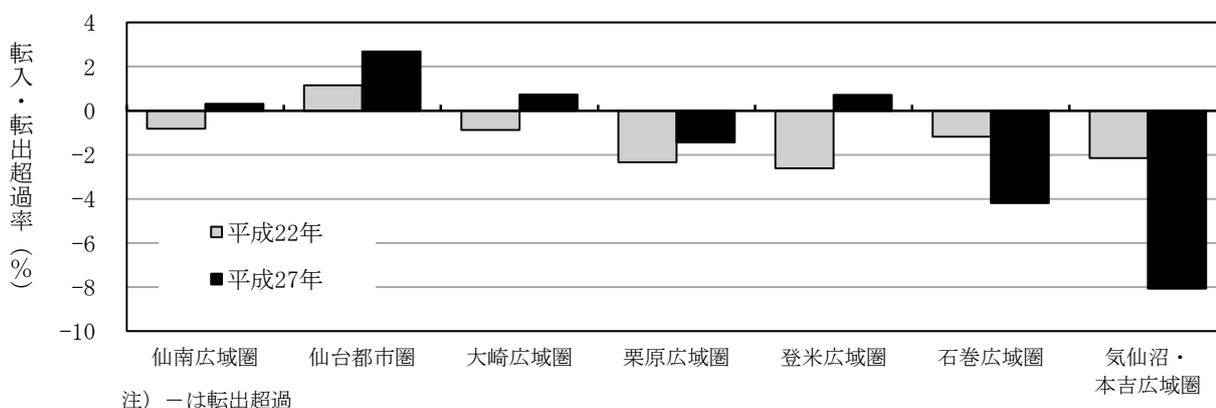


表 14 転入者数, 転出者数, 転入・転出超過数及び転入・転出超過率

－広域圏 (平成 22 年, 27 年)

地 域	転入者数				転出者数				転入・転出超過数 (－は転出超過)		転入・転出超過率 (－は転出超過)	
	平成27年	平成22年	増減数	増減率 (%)	平成27年	平成22年	増減数	増減率 (%)	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年
仙南広域圏	17,089	17,286	-197	-1.1	16,558	18,759	-2,201	-11.7	531	-1,473	0.3	-0.8
仙台都市圏	207,646	201,374	6,272	3.1	170,280	185,261	-14,981	-8.1	37,366	16,113	2.7	1.2
大崎広域圏	17,626	16,283	1,343	8.2	16,149	18,105	-1,956	-10.8	1,477	-1,822	0.7	-0.9
栗原広域圏	3,463	3,802	-339	-8.9	4,448	5,550	-1,102	-19.9	-985	-1,748	-1.4	-2.3
登米広域圏	5,776	3,547	2,229	62.8	5,201	5,703	-502	-8.8	575	-2,156	0.7	-2.6
石巻広域圏	18,001	15,523	2,478	16.0	25,935	18,008	7,927	44.0	-7,934	-2,485	-4.2	-1.2
気仙沼・本吉広域圏	4,352	4,380	-28	-0.6	10,500	6,291	4,209	66.9	-6,148	-1,911	-8.1	-2.1

注) 仙南広域圏：白石市・角田市・刈田郡・柴田郡・伊具郡(2市7町)
 仙台都市圏：仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・亘理郡・宮城郡・黒川郡(5市8町1村)
 大崎広域圏：大崎市・加美郡・遠田郡(1市4町)
 栗原広域圏：栗原市
 登米広域圏：登米市
 石巻広域圏：石巻市・東松島市・牡鹿郡(2市1町)
 気仙沼・本吉広域圏：気仙沼市・本吉郡(1市1町)